MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．９．２５　発行元
第 516 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

周木律『双孔堂の殺人』

例年、夏に行われる大学サークルＯＢ会で周木律の『双孔堂の殺人』を「犯人当てゼミ」の本として使用した。その時の二時間に渡る話し合いの様子と、真相が伝えられた後の感想を含めて報告してみたい。

周木律『"堂"シリーズ』

1．眼球堂の殺人 The BOOk
2．双孔堂の殺人 Double Torus
3．五覚堂の殺人 Burning Ship
4．伽藍堂の殺人 Banach-Tarski Paradox
5．教会堂の殺人 Game Theory
6．鏡面堂の殺人 Theory of Relativity
7．大聖堂の殺人 The Books

『犯人当てゼミ』として

学生の時所属していたサークルのメンバーが集まって「犯人当てゼミ」を開催する。学生の時代から数えるともう五十年である。最近はなかなか犯人当てに相応しい本が見つからずに苦労している。そんな中で、周木律の『双孔堂の殺人』はピッタリの本だつたと言えるだろう。

「ポアンカレ予想」などの数学的な蘊蓄に終始振り回されるのはしかたないと諦めること。「犯人当て」に関しては数学に関係なく推理することが可能だから。

人間関係から犯人を推理する

Ｙ湖畔に建てられた「ダブル・トーラス＝双孔堂」。元は美術館だったらしいが、今は数学者の降脇一郎という人物の持ち物になっているらしい。警察庁キャリアの宮司司がそこへ十和田只人のサインをもらいに行くという設定。宮司が到着すると連続殺人事件が起きたばかりで、警察の捜査が行われていた。

密室状態の中で二人の人物が殺され、その部屋の中に十和田が拳銃を握って倒れていた。「犯人は決まり！」と思えるのだが…。

でも、十和田はシリーズを通しての探偵役なので、犯人ではないだろう。「さて、誰が犯人か？」が話し合いのスタートである。

私などは密室のトリックの方に気を取られているのだが、他の参加者は登場人物の分析で、次々と推理を積み重ねてくれる。私が読み飛ばしていた箇所も伏線としての意味があると説明してくれる。

何しろ最初に集まった登場人数が八人で、そのうち二人が殺され、一人が探偵なら、容疑者の範囲は五人でしかない。記述されていない隠された人物像に面白さがあると言えばその通りである。

館に仕掛けられた秘密…

建物が特殊な構造をしているので、ここに何か仕掛けがあるのだろうな…とは思う。あちこちに建物の見取り図が提示されていて、親切そうに見えるのだが…。犯人の動きはかなり細かく組まれている。監視カメラの位置なども微妙に関連してくるので、ルートをしっかりと分析しなくてはならない。

最後に明かされる建物全体に関わる仕掛けは…。「本格謎解き」が好きな読者には楽しめるものだと思う。ミステリを読み慣れたマニアックな人向けということだろうか。最近の「密室もの」の流れに沿ったものだと思う。

周木律という作家は…

私が周木律の「堂シリーズ」を読むのは本書が初めて。これほど「数学」のインパクトが強いとは思わなかった。これをきっかけに他の作品にも手を広げていくと思う。ただ、地方の書店には置いていないことが多く（講談社文庫）、本を探すのに苦労するかもしれない。

青柳碧人「名探偵の生まれる夜大正謎百景」

昨年１２月に角川書店から出た本。『小説野性時代』などに連載した短編を集めたもの。副題にもあるように大正時代の有名人が登場してくる歴史ミステリとも言える。「名探偵」とは書いてあるものの、謎解き要素は…。

第一話の『カリーの香る探偵譚』は若いころの江戸川乱歩が登場。学生の乱歩が探偵事務所に勤めたくなり、インド人のボース氏を探す役目に立候補する話。大正時代という背景がしっかり描かれている。乱歩の推理は当たったような外れたような…。第二話の『野口英世の娘』は題名の通り野口英世に関する話。海外で有名になり、一時帰国した野口の前に「娘」を名乗る女性が登場。野口を若いころから応援してきた製薬会社社長の星一がその女性の誕生前後のいきさつを調べてみると…。野口英世の人物像が面白おかしく描かれている。第三話の『名作の生まれる夜』は鈴木三重吉が雑誌『赤い鳥』に載せる原稿を芥川龍之介に依頼する場面。芥川は一度断るのだが…、鈴木の上手なヒントが名作に結び付くきっかけに…。短い作品なのだがショートショートのような切れ味を見せる。第四話『都の西北、別れの歌』は、日本の演劇の流れに大きな役目を果たした島村抱月の死に関わってのもの。「都の西北」の題名の通り「早稲田」の話と言ってもよい。